

「何をやってもいいんですか」自律学習プロジェクト

田中香織, ブリティッシュコロンビア大学

今回報告した実践は、初級の総合教材を用いて基礎的な日本語力を養いつつ、日本語を使って活動することを始めるきっかけを与える役割を担うものである。

このプロジェクトで履修生は、現在の日本語能力や学習についてよく内省し、自分に必要な、且つ自分に合った学習方法を考え、計画し、実行し、振り返るという一連の流れの中で、今後の学習を主体的に進めていくための練習をすることになる。また、これは成果発表型のプロジェクトで、学期末にクラス内で行われる報告会では、コースの総まとめとして、各自、自分のプロジェクトについて説明し、成果や反省点を報告する。学生にとって、約 30 名いるクラスメートの発表を聞くことが苦にならない点は、このプロジェクトの利点の一つと言える。他の学生の発表で多様な学習方法やリソースを知ることができ、自分の次の学習への動機付けになったことや、他の学生の努力の成果を目の当たりにして驚いたり、失敗談を聞いて共感したりすることが良い刺激になったことが、学生による振り返りからも伺える。

コースの総まとめに位置付けられる学期末プロジェクトはカナダの日本語教育では一般的なものであり、そのため機関を跨いだ教師間の情報交換においても、どんなプロジェクトを実践しているかということは、話題に上りやすいことの一つであるように思われる。この度のオンライン共有会のラウンドテーブルでは、話題提供者が4つのプロジェクトの実践を紹介した後、参加者に小さいグループに別れてもらい、まず、各参加者が実施している（または実施してみたい）プロジェクトの概要を挙げてもらってから、グループ内で自由に意見交換をさせていただいた。挙げていただいたプロジェクトの概要は本ラウンドテーブルの参加者全員が互いに今後の実践のヒントとさせてもらえるよう、web アプリケーションで共有した。

今回の共有会に話題提供者として参加させてもらったことにより、貴重な学びを得ることができた。まず、話題提供者間での事前準備の話し合いでは、プロジェクトの意義をどう考えているか、プロジェクトを通じて学習者にどう育ててほしいか等について、十分な時間、理念を語り合い、互いの取り組みについて学び合う機会を得ることができた。また、自分自身の実践の振り返りというものは「いつかやろう」と思いながら、なかなか時間を取ることができず、そのままになってしまうことが多い。今回の共有会の準備を通じて、学生によるプロジェクトの分析や意見を見直し、考える機会になったこともありがたかった。

最後に、ラウンドテーブルの形式を生かした意見交換の部分については、ご参加いただいた方の人数が多かったため、全体で十分に話し合う時間は取れなかったものの、グループの中で挙げていただき、全体で共有させていただいた多種多様なプロジェクトとその概要は、すばらしいアイデア集となった。参加してくださった先生方が今後プロジェクトのアイデアを得るために使ってくださいれば、本ラウンドテーブルとして一定の成果があったものと思う。